

第3次渋川市観光基本計画

(2023 ~ 2027)



群馬県渋川市



伊香保温泉

市長あいさつ

渋川市の観光業は、名湯伊香保温泉を中心に、市域全体に広がるさまざまな観光資源を抱えており、人口減少社会における交流人口増と経済効果を見込める重要な産業といえます。

市では観光振興のため、平成30年度から令和4年度までを計画期間とする「第2次渋川市観光基本計画」を策定し各種施策等を推進しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、観光を取り巻く環境は一変しました。滞在地での過ごし方の変化や個人旅行へのシフトが急激に進み、観光地ではその対応に追われています。

今後、国内人口の減少がさらに進んでいく中で、観光地への集客は、新たな視点や独自の取組が求められます。インバウンド対応やDX化への対応といった種々の取組課題はありますが、数ある観光地から渋川市を選んでくださったお客様に素敵な時間を提供し、第2のふるさとと感じていただき、再びお越しいただけるような観光地づくりが必要です。そして、地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域内の経済循環を高めるなど、持続可能な観光地づくりを

推進し、観光を核とした地域活性化の好循環を創出していくことも重要といえます。

それらを解決していくために、今後の渋川の観光をどうしていけばよいか、また、迎え入れる側の観光に携わる皆さまや市民の皆さまにいかに分かりやすく伝えるか。それを具現化したものが、この「第3次渋川市観光基本計画」です。

市ではこの計画を拠り所に、観光関係者や市民の皆さまとともに5年間の観光振興に取り組んで参ります。

結びに、本計画策定にあたり、ご尽力を賜りました策定委員会委員の皆さまをはじめ、ご協力いただきました関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。



令和5年3月

渋川市長 高木 勉



ロウバイの郷こもち

目 次

第1章 観光基本計画と観光業、その範囲

- Q1. 観光基本計画ってなに? 1
- Q2. 観光ってそんなに大事なの? 3
- Q3. どこまでが観光なの? 5

第2章 渋川市の観光の現状と課題

- Q4. 渋川の観光って、いまどんな感じ? 7
- Q5. 渋川の観光の「強み」と「弱み」を教えて! 9
- Q6. 渋川の観光の課題は? 11

第3章 渋川市の観光の目指すべき姿

- Q7. どうしたら良くなるの? 13

第4章 具体的な取組内容と数値目標 (KPI) 15

第5章 推進体制 25

参考資料 28

Q1. 観光基本計画ってなに？



A1.

渋川市の観光をより良くするために、目標や期間を定めて取組を進める計画です。計画をすることにより、市などの行政や旅館・土産物屋・飲食店・美術館といった観光に携わる人たちが同じ思いを持ち、訪れる人を迎え入れることができます。

■ はじめに 本計画について

本市の観光振興については、平成20年度に計画期間を10年間とする「渋川市観光基本計画」を、平成30年度に計画期間を5年間とする「第2次渋川市観光基本計画（以下「現計画」という。）を策定し、推進してきました。

現計画は、令和4年度に計画期間の終了を迎えることとなりますが、引き続き、国等の新たな観光施策への適切な対応、旅行形態の変化や旅行ニーズの多様化に柔軟に対応した新たな観光の魅力づくりや観光戦略が求められています。

このようなことから、現計画の検証を行い、課題

の抽出と検討を行うとともに、観光を取り巻く情勢の変化に適切に対応し、第2次渋川市総合計画との整合を図りながら、伊香保温泉をはじめとする本市の観光資源を体系的、効果的にいかした観光振興に取り組むため、「第3次渋川市観光基本計画」（以下、「第3次計画」という。）を策定するものです。

なお、第3次計画の計画期間は2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間とし、必要に応じて見直しをするものとします。

Q2. 観光ってそんなに大事なの？



小野池あじさい公園

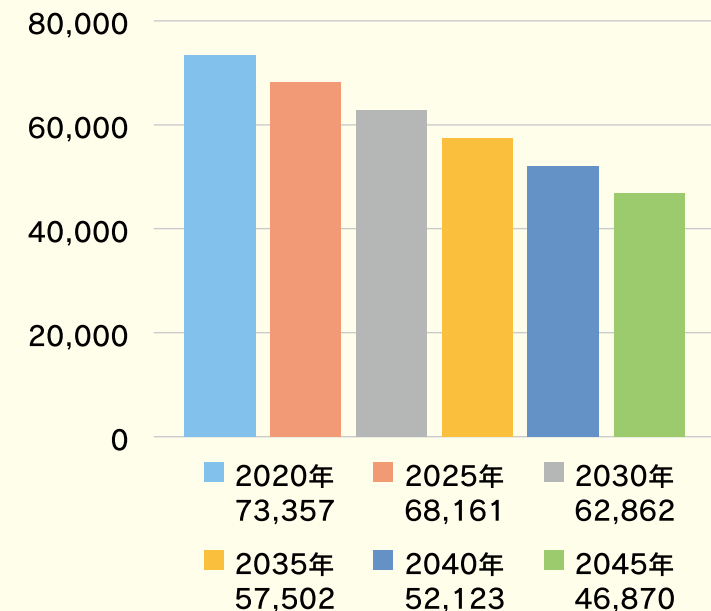
A2.

澁川市の中では、さまざまな産業が経済活動を行っていますが、「観光」業は、人口が減っていく社会の中でも、「工夫」によって成長が見込まれる、重要な産業の一つです。

■ 人口減少社会と「観光」業への期待

澁川市人口推計

(単位：人)



国立社会保障・人口問題研究所推計より

令和4年版観光白書より

観光関連産業には全国で約900万人の方が従事し、地方経済を支える重要な役割を果たしている。新型コロナウイルス感染症の収束後も、人口減少が進む我が国では、観光による内外との交流人口の拡大を通じた地域活性化の重要性に変わりはない。

新型コロナウイルス感染症の拡大後、国内外の観光需要が大幅に減少し、観光産業が深刻な影響を受ける中、雇用維持と事業継続の支援を行うほか、需要喚起支援に加え、ワーケーション、「第2のふるさとづくり(何度も地域に通う旅、帰る旅)」等、新たな交流市場を開拓する。さらに、観光産業の変革を進め、観光地等におけるデジタル実装、観光産業や観光地の再生・高付加価値化、地域独自の旅行商品の創出等により、豊かさを実感できる稼ぐ地域を実現する。

我が国は全国各地に、国内外の観光客を魅了する自然・気候・文化・食が揃っており、新型コロナウイルス感染症下でもこれらの魅力は失われていない。観光は成長戦略の柱、地方創生の切り札であり、持続可能な観光に向けた取組を進めつつ、観光立国復活に官民一丸で取り組む。

Q3. どこまでが観光なの？

- ① 関係人口
- ② 日帰り観光
- ③ 1泊型観光

これまでの渋川の観光

- ④ リピート観光
- ⑤ 滞在型観光

特に伸ばしていくべきところ

- ⑥ 副業型観光
- ⑦ 二地域居住
- ⑧ 移住

これからの渋川の観光
交流⇒「還流」

かわづ桜の丘 白井

A3.

渋川市を訪れる観光客の多くは、首都圏からの日帰りまたは1泊で、レジャー・余暇として訪れています。今後は、レジャー・余暇を越えた新たな体験や交流を提供し、ファンやリピート、長期滞在や移住・定住にまでつながるより広い意味での交流(=「還流」)を「観光」と捉えて活動していく必要があります。

■ 「交流」から「還流」へ

～観光の再定義：レジャー産業から社会を支える産業へ～

観光は、この50年間、団塊の世代に支えられてきました。高度成長期以降、海外旅行の大衆化や国内旅行が活性化し、地方の観光地も職場旅行や家族旅行でにぎわいました。これらの消費は主に団塊の世代市場が支えてきましたが、団塊の世代も75歳を超え、戦後初めての人口最多世代(団塊ジュニア)の交代を経て、市場は一転していきます。

今後、地方から都市への人口流出が続く中で、より広い範囲の交流までを対象とした人口の「還流」こそが、地方経済・社会維持の手段となります。単

なる余暇時間のレジャーにとどまらず、社会を支える産業として、新しい需要を創造していくことが観光産業に求められます。

地域が行うべき役割は、都市とは異なる自然環境・地域産業・地域文化といった価値の維持とそれぞれの再生や活用であり、それらの活動への体験・参加を通じて、旅行者の自己の学びや心身のケアをサポートしていくことが、新しい観光となります。

Q4. 渋川の観光って、いまどんな感じ？



A4.

渋川市の観光は、伊香保温泉を訪れる観光客が大半を占めます。宿泊数でいえば、市内に泊まった人の90%が伊香保温泉に宿泊しています(H30年度・伊香保 106万人/市全体 117万人)。伊香保温泉の集客が、渋川市の観光の「鍵」となっています。

■ 第2次計画の数値目標からみる状況

本市においては現計画の策定により、計画最終年度である令和4年度末に「市内観光客数を529万人」「伊香保温泉への年間宿泊者数140万人」となる目標を掲げ、各種施策の展開及び事業を実施してきました。

しかしながら、平成30年度から令和元年12月頃まで順調に推移していた中、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年1月以降は現計画の各種指標となっている数値が大幅に悪化しており、最終目標の達成は困難な状況にあります(下表参照)。

第2次観光基本計画における指標の推移

	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (最終目標)
市内観光客数	万人	485	428	269	276	529
市内宿泊者数	万人	117	113	64	69	155
伊香保温泉宿泊者数	万人	106	102	55	60	140
伊香保温泉外国人宿泊者数	人	13,399	10,569	12	11	21,900
市内観光消費額	百万円	19,374	18,737	10,915	11,766	22,815

Q5. 渋川の観光の「強み」と「弱み」を教えてください！



赤城 棚下不動の滝

A5.

渋川市の観光の現状を、強みと弱み(内的要因)、機会と脅威(外的要因)にそれぞれ分けたものが、下の「SWOT分析」です。渋川全域と、伊香保温泉に分けて表記しています。ここから課題を見つけ出します。

SWOT分析

強み：Strengths
弱み：Weaknesses

機会：Opportunities
脅威：Threats

内的要因

強み(渋川全域)

- ▷各地区に温泉、宿泊施設がある
- ▷キャンプ場 ▷ゆず ▷コンニャク一大生産地 ▷もつ煮 ▷そば ▷棚下不動滝(日本の滝百選) ▷軽登山(小野子・子持・水沢山) ▷ハイキング(伊香保森林公園、赤城自然園) ▷城跡(御城印) ▷神社仏閣(御朱印) ▷東国文化(金井東裏遺跡・黒井峯遺跡等) ▷アニメツーリズム ▷ゴルフ場 ▷日本のまんなか ▷ハワイアン ▷徳富蘆花

強み(伊香保温泉)

- ▷石段街を中心としたレトロな街並みにより、歩き回りたくなる魅力を有している
- ▷古くから湯治場として栄えた「黄金の湯」▷黄金・白銀と楽しめる2種類の源泉▷「関東の奥座敷」と呼ばれ、群馬の四大温泉地の中で首都圏に最も近い
- ▷冬は降雪量も少なく天気が安定しており、訪れやすい
- ▷アート・歴史など、誘客に資する幅広いコンテンツを保持している

弱み(渋川全域)

- ▷情報発信力が弱い
- ▷DX対応の遅れ
- ▷市内観光への二次交通が脆弱
- ▷体験型農業コンテンツが少ない
- ▷渋川ならではの食の楽しみが少ない
- ▷平地が少なく散策が大変、バリアフリー化が困難
- ▷長期滞在に対応した各種資源の整備、連携不足
- ▷榛名湖エリアとの連携不足
- ▷看板等、インバウンド対応不足

弱み(伊香保温泉)

- ▷団体顧客向けの施設が多く、個人旅行ニーズに適合できていない ▷石段街というコンテンツを消費につなげることができていない ▷石段街の魅力が石段街だけに留まりうまく回遊性を生み出せていない ▷伊香保温泉の歴史文化をいかせていない ▷長期滞在率が極端に低い▷温泉街の景観の向上への配慮が不十分 ▷観光スポットの近隣に廃屋があり、地域のブランド価値を毀損している ▷インバウンド顧客が求めるハイクオリティな宿が少なく、受入態勢が整っていない ▷高齢者や障がい者が安心して長期間滞在できる宿が少ない

外的要因

機会(渋川全域)

- ▷コロナ禍で国内需要が継続している
- ▷コロナ収束後に一定のインバウンド需要が見込める ▷観光産業を発展させようとする国の動きがある ▷癒しや保養休養志向が高まる傾向にある ▷高齢化社会に伴い、健康志向や歴史文化志向が高まっている ▷アートに癒しを求める人が増えている ▷農業、レジャーなど体験型観光の需要が高まっている

機会(伊香保温泉)

- ▷自然志向、癒しや保養休養志向の人々が増加傾向にある
- ▷“温泉ブーム”は根強く続いており、今後も安定需要が期待できる
- ▷北関東道の開通により栃木・茨城県からの来訪者が増加している
- ▷圏央道の東名高速との接続により、神奈川県方面からの誘客拡大が進んでいる

脅威(渋川全域)

- ▷海外旅行慣れにより観光客が国外流出している
- ▷保養休養志向の人々は海外のリゾート地へ流出する傾向がみられる
- ▷高齢化社会に伴うバリアフリー化要請が拡大する(特に伊香保温泉街)
- ▷観光従事者の高齢化や人手不足

脅威(伊香保温泉)

- ▷草津や箱根など、群馬県内や関東圏に競合する温泉地が多数存在する
- ▷宴会目的の団体客が減少し、保養休養志向の個人宿泊客への転換が進んでいる
- ▷1人当たりの国内宿泊観光回数、宿泊数が減少している
- ▷上信自動車道の整備推進に伴い競合温泉地がさらに増加する。
- ▷首都圏からの観光客が多く、連泊や長期滞在化が進まない

Q6. 渋川の観光の課題は？



赤城 上三原田の歌舞伎舞台

A6.

渋川市の課題として、SWOT分析などを基に下記の5つの項目として整理しました。それぞれの課題である、①幅広い観光対応 ②観光資源の有効活用 ③地域連携の推進 ④DX化による効率化 ⑤SDGs・共生社会推進への対応をどうしていくか。それには「渋川市の目指すべき姿」を考える必要があります。

■ 渋川市の観光振興における課題

1 観光に関わるターゲットの拡大

これまでの余暇時間のレジャー＝観光を見直して、人口減少社会における人口を還流させるための社会基盤となる産業と位置付けます。これまでの日帰り・1泊型観光に加え、リピート観光や滞在型観光に注力していき、移住・定住までを視野に入れた事業を展開していく必要があります。

2 豊富な観光資源を効果的に活用した観光プロモーションの推進

本市の観光資源は温泉や自然だけでなく、歴史や文化・アートといった資源のほか、特産品となる農作物や食もあります。しかし、いかしきれていません。これらを効果的に活用することにより、より魅力的な観光地となり、回遊性・滞在時間を増やしていくことへとつながります。

3 有機的な地域連携

豊富な観光資源を魅力的に磨き上げても、単体での効果には限度があります。これまで行われてこなかった異なる宿泊施設による連泊プランの設定や飲食店利用による宿泊設定といった、エリアやジャンルを越えた有機的連携が、多様なニーズに応える鍵となります。

4 デジタル化・DX化の推進

人材不足への対応や効率的な事業経営にデジタル化は欠かせません。また、デジタル化により幅広いインバウンドへの対応も可能となります。さらに二次交通を含めた観光 MaaS やデジタル・キャッシュへの対応など、観光地全体で DX 化が求められています。

5 SDGs・共生社会推進の視点での取組

インバウンドの受け入れ＝世界基準の観光地づくりが必要となります。SDGs・共生社会推進の視点が国内でも急速に取り入れられていますが、「共生社会実現のまち 渋川市」としてこの視点を取り入れることは必須です。

《用語解説》

■ DX(でいーえつくす)

デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略で、業務のデジタル化で効率化を図るだけでなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うものと位置付けられる。

■ MaaS(まーす)

“Mobility as a Service”の略。電車やバス、飛行機などの交通手段を乗り継いで移動する際、スマートフォン等から経路検索や予約、支払までを行えるように利便性を高めたり、公共交通の利用促進を図り、交通渋滞や環境汚染、交通弱者対策などの問題の解決に役立てるサービスのこと。

■ インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

■ SDGs(えすでいーじーず)

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。「2030年までに世界をより良くするために世界中の人が取り組むべき目標」として2015年9月に国連で採択された指標で、世界中のだれもが取り組むべき目標として5つの分野に17の目標が設定されている。

用語解説 : 観光庁HP、JTB総合研究所HP「観光用語集」
参照元 : をもとに渋川市が作成

Q4. どうしたら良くなるの？



A7.

渋川市の観光の目指すべき姿＝テーマやイメージ、ターゲットや重点整備方針などを決めます。そこから、基本方針・取組方針、そして具体的な取組内容を導き出していきます。

■ 渋川市の観光振興の目指すべき姿

1 計画テーマ「歴史を感じる 新たな魅力の再発見 ～観光未来戦略～」

2 観光イメージ

- ・伊香保温泉を中心とした市内各地に魅力的な観光地が点在し、訪れる人々がゆっくと楽しみ滞在する
- ・渋川、伊香保ならではの「食」を楽しみに訪問する観光客が増える
- ・旅館やグランピング施設、キャンプ場といった宿泊施設の垣根を越えた滞在プランが利用できる
- ・DX、観光 MaaS の導入が進み、二次交通や観光施設・飲食店などの利便性が高まる

3 主要ターゲットエリア

- ・日帰り・1泊：首都圏及び近県(群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、新潟県、茨城県、栃木県、長野県、福島県、山梨県)
- ・連泊：全国
- ・長期滞在：インバウンド(台湾、中国、タイ、豪州、米国)

4 主要ターゲット層

- ・情報発信力のある若年層(カップル・女性グループ・一人旅)
- ・リトリート志向の中高年層
- ・自然体験、農業体験志向のファミリー層
- ・歴史・文化・アートに興味のある層
- ・リモートワーカー、ワーケーション利用者層
- ・インバウンド層

5 重点整備方針

- ・長期滞在化、高付加価値化、ブランド化
- ・デジタル化、DX化
- ・ニューノーマルへの対応
- ・SDGs・共生社会の視点
- ・インバウンドに対応した環境整備

《用語解説》

■ グランピング

グラマラス(glamorous)とキャンピング(camping)を掛け合わせた造語で、高級かつ魅力的なキャンプの雰囲気味わえる施設のこと。

■ リトリート

リトリートとは、仕事や生活から離れた非日常的な場所で自分と向き合い、心と身体をリラックスさせるためにゆったりと時間を過ごす新しい旅のスタイル。忙しい日常生活から離れ、心や身体を癒す旅。

■ ワーケーション

英語のWork(仕事)とVacation(休暇)の合成語。リゾート地や地方部など、普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得を行うこと。あるいは休暇と併用し、旅先で業務を組み合わせる滞在のこと。

■ ニューノーマル

「New(新しい)」と「Normal(常態)」を掛け合わせた言葉。近年では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けて変化した、新しい生活様式や働き方などを指す言葉として用いられる。

用語解説
参照元

JTB総合研究所HP「観光用語集」、じゃらんNet じゃらんニュース、リクルートマネジメントソリューションズHP「人材育成・研修・マネジメント用語集」をもとに渋川市が作成

具体的な取組内容



伊香保グリーン牧場

「渋川市の観光振興における課題」と、課題から導き出した「目指すべき姿」から3つの「基本方針」に分類し、それぞれ2つの「取組方針」を設定し、取組方針に基づいた「具体的な取組」を以下のとおり定めます。

計画テーマ **「歴史を感じる 新たな魅力の再発見 ～観光未来戦略～」**

基本方針	取組方針	具体的な取組内容
Ⅰ 新たなニーズ への対応	1 還流人口増に向けたニーズ把握	① 長期滞在、リピート訪問、ファン層獲得のための定期的な需要調査 ② 県、観光物産国際協会及び地区 DMO と連携したデータ活用 ③ 二地域居住、移住・定住までを見据えた関係者との情報共有
	2 的確な情報発信と誘客	① 「渋川ならではの魅力」を活かしたプロモーションの強化 ② ニューノーマル下の旅行形態に対応した誘客 ③ 温泉文化をはじめとする、国や地域を絞ったインバウンド向け情報発信
Ⅱ 観光資源の 活用・連携	1 渋川市ならではのコンテンツの確保	① 渋川・伊香保温泉の新たな顔となる「食」の開発 ② 歴史、文化、アートを活用した資源の開発 ③ 自然体験や農業体験、工場見学といったコト消費の充実
	2 長期滞在層・リピート層の獲得	① 異なる宿泊施設との連泊プランの検討 ② 宿泊施設と飲食店の連携 ③ 市内地域間、広域圏、隣接市町村との観光連携の推進
Ⅲ 新たな観光地 づくり	1 SDGs・共生社会推進の観光地	① インバウンド対応も見据えた観光地・宿泊施設のユニバーサルデザイン化の推進 ② 宿泊施設、飲食店で使用する地元産食材比率の引上げ ③ 環境に配慮した観光地・温泉地づくり
	2 DX化によるスマートな観光地化	① 電子通貨を活用した観光振興施策の展開 ② 市民の利便性も考慮された観光 MaaS への取組 ③ ホテル管理システムなどを活用したマーケティング把握と対応



小野上の棚田

基本方針Ⅰ 新たなニーズへの対応

1 還流人口増に向けたニーズ把握

本市のこれからの観光振興を進める上で、重要なターゲットとなる「長期滞在客」「リピート客」「ファン層」。

より長く滞在してもらい、渋川を好きになってもらい、また来てもらう。そうなるためには、こちらが望むサービスを提供するのではなく、観光客のニーズを的確に把握する必要があります。

そのためには、デジタル技術を活用した需要調査や関係団体と連携したデータ分析や活用を行う必要があります。

具体的な取組内容

- ① 長期滞在、リピート訪問、ファン層獲得のための定期的な需要調査
- ② 県、観光物産国際協会及び地区 DMO と連携したデータ活用
- ③ 二地域居住、移住・定住までを見据えた関係者との情報共有

《用語解説》

■ DMO (でいーえむおー)

Destination Management Organizationの略。観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。

用語解説参照元: JTB総合研究所HP「観光用語集」をもとに渋川市が作成

2 的確な情報発信と誘客

観光客のニーズを把握しても、ニーズに合わせた情報発信をしなければ効果は上がりません。

また、新たに渋川市へ訪問したいと思ってもらうためには、本市の魅力を最大限に伝えなければなりません。

これまで以上に、より明確化したターゲットに向けた効果的な情報発信をしていくとともに、観光客自らが旅マエ・旅ナカ・旅アトに発信したくなるような情報の提供を行っていくことが重要です。

具体的な取組内容

- ① 「渋川ならではの魅力」を活かしたプロモーションの強化
- ② ニューノーマル下の旅行形態に対応した誘客
- ③ 温泉文化をはじめとする、国や地域を絞ったインバウンド向け情報発信



伊香保 ときめきデッキ

基本方針Ⅱ 観光資源の活用・連携

1 渋川市ならではのコンテンツの確保

何でもあって「そこそこ」だけど、「とびきり」じゃない……。これは、渋川市・群馬県の観光全体にいえることかもしれません。渋川でなければ体験できない自然や食、地域文化や地場産業などの「とびきり」を提供できるかが、今後の成功につながります。

具体的な取組内容

- ① 渋川・伊香保温泉の新たな顔となる「食」の開発
- ② 歴史、文化、アートを活用した資源の開発
- ③ 自然体験や農業体験、工場見学といったコト消費の充実

2 長期滞在層・リピート層の獲得

長期滞在層・リピート層の獲得には、新たな取組が必要となります。これまで競合していた地域や事業者がともに手を携えることにより、新たな魅力が創出されます。これは市域内にとどまらず、広域圏や隣接市町村、それ以上離れた県内観光地との連携も必要となる場合も今後は想定されます。思い切った戦略が、インバウンドをはじめとする新たな層の獲得につながります。

具体的な取組内容

- ① 異なる宿泊施設との連泊プランの検討
- ② 宿泊施設と飲食店の連携
- ③ 市内地域間、広域圏、隣接市町村との観光連携の推進



伊香保 だんだん広場

基本方針Ⅲ 新たな観光地づくり

1 SDGs・共生社会推進の観光地

誰もがくつろげる観光地を目指していくためには、SDGs・共生社会を積極的に推進する観光地となる必要があります。食や環境・景観・街並みやサービスに至るまで、一つ一つのバリアを取り除いていき、持続可能な観光地として訪れる人々に共感を持って滞在してもらえよう、取組を行っていきます。

具体的な取組内容

- ① インバウンド対応も見据えた観光地・宿泊施設のユニバーサルデザイン化の推進
- ② 宿泊施設、飲食店で使用する地元産食材比率の引上げ
- ③ 環境に配慮した観光地・温泉地づくり

2 DX化によるスマートな観光地化

訪れる観光客がより快適に、より便利に過ごせるようになるためには、デジタル化対応は必須です。観光客の生活圏と同等あるいはそれ以上のデジタル化サービスを提供できれば、長期滞在化やリピート化にもつながります。また、DX化は幅広いインバウンドへの対応も可能とします。観光客の利便性の向上は、市民サービスの向上も伴うものとなります。

具体的な取組内容

- ① 電子通貨を活用した観光振興施策の展開
- ② 市民の利便性も考慮した観光 MaaS への取組
- ③ ホテル管理システムなどを活用したマーケティング把握と対応



数値目標(KPI)

《用語解説》 ■ K P I
 Key Performance Indicatorの略語で、日本語では「重要業績評価指標」と言う。事業目標を達成するために実行すべき過程が、適切に実施されているかを数値化して評価するもの。

計画が目指すべき姿に向かって進んでいるかどうかを測る目標として、以下のKPIを設定します。項目①・②については、コロナ禍前の平成30年度数値までの回復を目標とし、③・④は宿泊施設が高付加価値化に取り組んでいることを踏まえ増加を見込みます。⑤～⑦は新たに設定する指標で、長期滞在化や情報発信、デジタル化対応に関する指標となります。

項目		現状値 (2021(R3)年度)	目標値 (2027(R9)年度)	備考
①	市内観光客数	276万人	485万人	2次渋川市総合計画後期基本計画指標
②	市内宿泊者数 (うち、伊香保温泉)	69万人 (60万人)	117万人 (106万人)	2次渋川市総合計画後期基本計画指標
③	伊香保温泉外国人宿泊者数	11人 10,569人(R元年度)	15,000人	2次渋川市総合計画後期基本計画指標
④	観光消費額	11,766百万円	20,672百万円	2次渋川市総合計画後期基本計画指標
⑤	伊香保温泉連泊率	1.02%	1.15%	新規設定指標
《渋川伊香保温泉観光協会会員のうち、主に宿泊・飲食・小売・サービス業に係る対応状況》				
⑥	Googleビジネスプロフィール	評価平均	3.8	新規設定指標 ※現状値は、R4.10月調査結果数値。
⑦	キャッシュレス決済	クレジットカード対応率	61.5%	
		電子マネー対応率	58.5%	80.0%

《用語解説》 ■ Googleビジネスプロフィール
 Googleが提供する無料の情報管理ツール。Google検索とGoogleマップ検索結果に表示されるため、多くの人に店舗・施設情報などを伝えることにより集客効果を見込める。一方でユーザによる口コミ評価(☆5段階)も掲載されるため、適切な情報発信が重要となる。

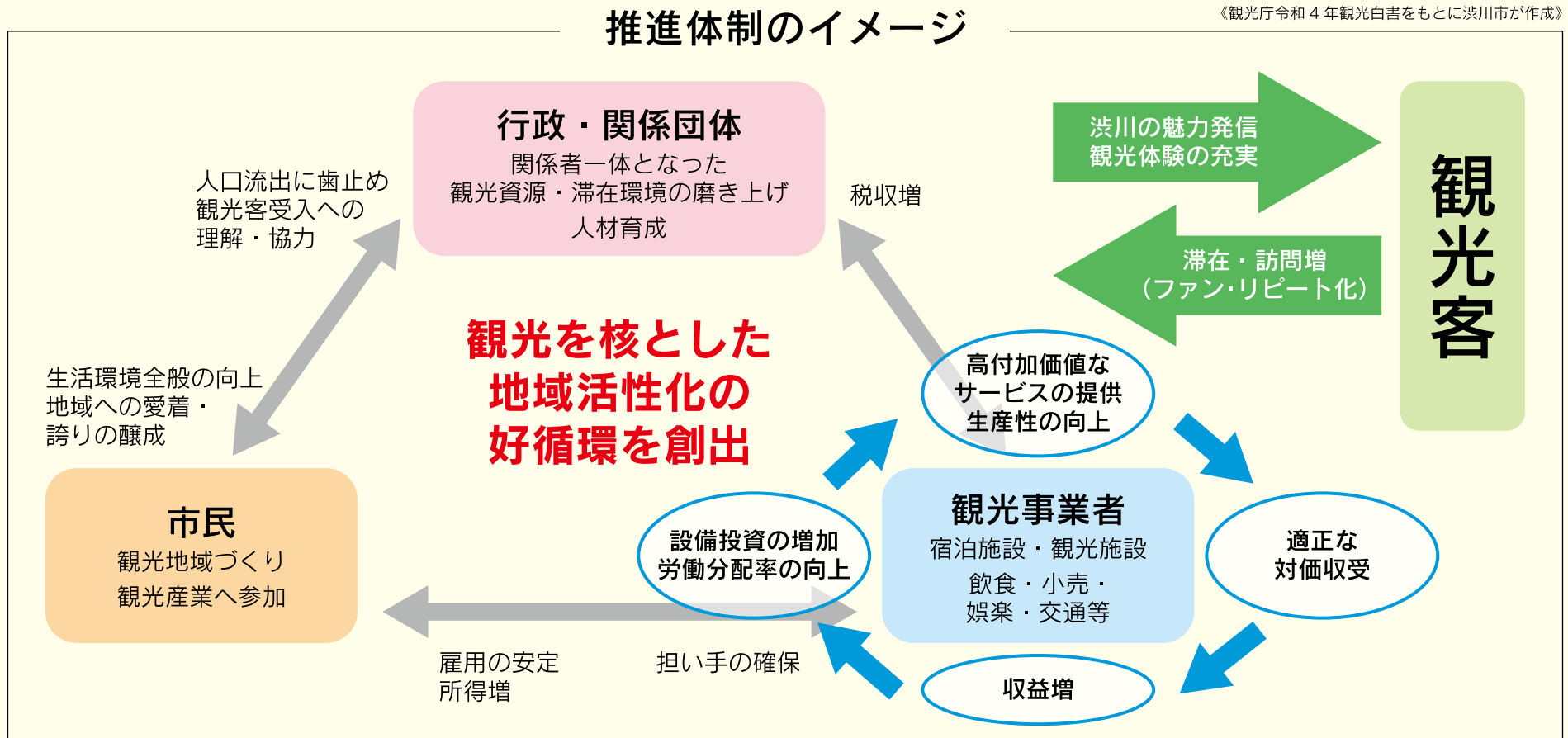


北橋 佐久発電所の桜

推進体制

本計画の具体的な取組を推進していくためには、市民・観光関係者・行政などが一体となり、それぞれが役割と責任を担いながら、お互いに連携し、情報共有していくことが必要です。

また、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、地域内の経済循環を高めるなど、持続可能な観光地づくりを推進していくことも必要となります。それぞれの立場で自主的、主体的に観光振興に取り組みながら、観光を核とした地域活性化の好循環を創出していきます。





北橋 木曾三社神社

参考資料

第3次渋川市観光基本計画の策定経過

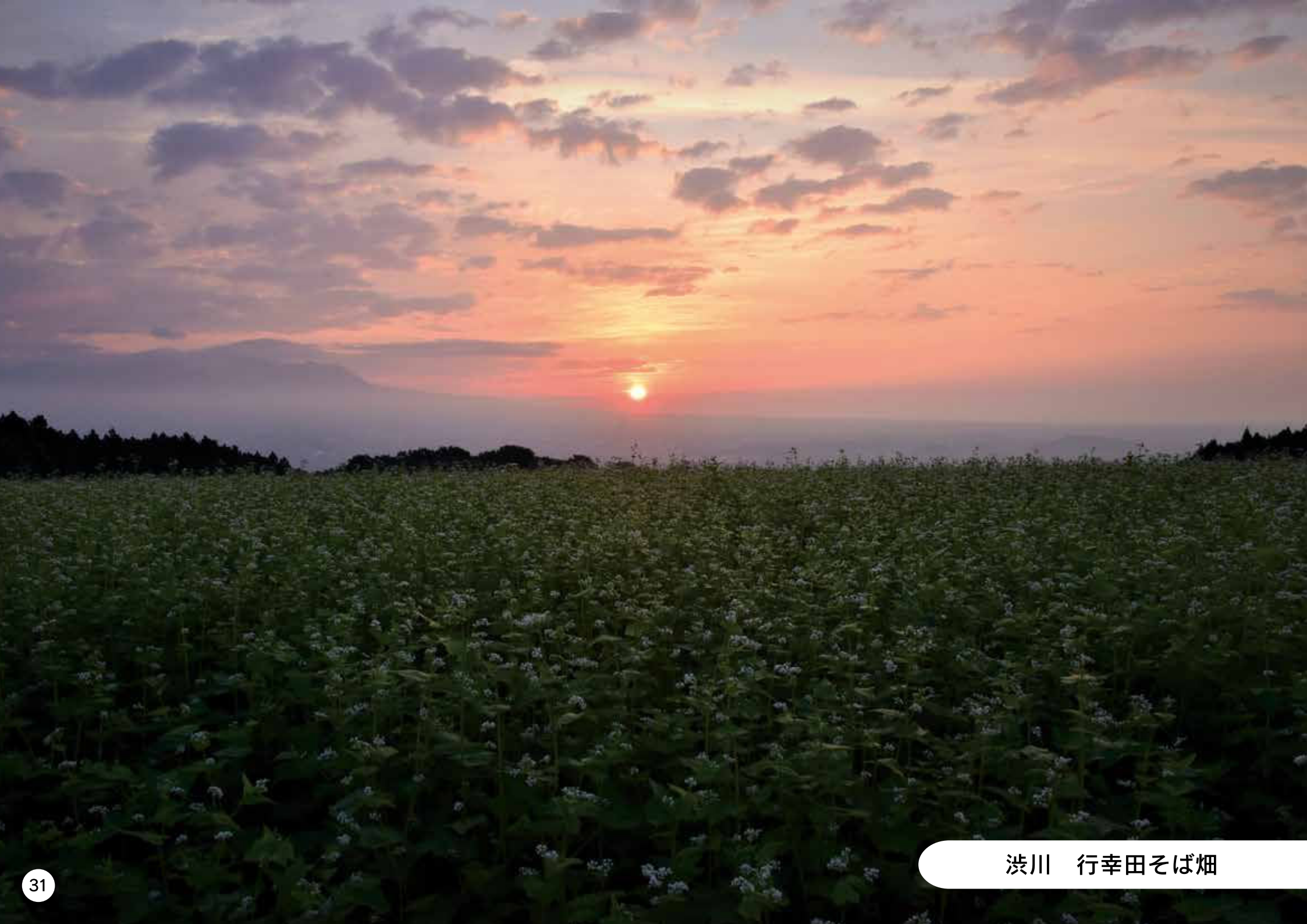
	日 程	内 容
第1回策定委員会	令和4年 6月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次渋川市観光基本計画策定方針及びスケジュールについて ・渋川市の観光の現状と課題について
第2回策定委員会	令和4年 8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の現状把握と課題の整理 ・地域条件の分析
第3回策定委員会	令和4年10月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興の目指すべき姿について ・具体的な取組について ・K P I (数値目標)の設定について
第4回策定委員会	令和4年11月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次渋川市観光基本計画(案)について
市議会中間報告	令和4年12月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・渋川市議会(経済建設常任委員会協議会)報告 第3次渋川市観光基本計画策定の中間報告について
市民意見公募	令和4年12月16日 令和5年 1月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見公募の実施(提出意見なし)
第5回策定委員会	令和5年 1月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見公募実施報告 ・第3次渋川市観光基本計画(案)について
市議会策定報告	令和5年 3月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・渋川市議会(経済建設常任委員会協議会)報告 第3次渋川市観光基本計画(案)について



渋谷スカイランドパークのアナベル

渋川市観光基本計画策定委員会 委員名簿

団体区分	所属団体等	役職	委員氏名	備考
学識経験者	國學院大學観光まちづくり学部観光まちづくり学科	教授	井門 隆夫	委員長
観光関係団体	群馬県観光物産国際協会	MICE 推進課 主任	神田 こず恵	
	渋川伊香保温泉観光協会	会長	関口 征治	副委員長
	伊香保温泉旅館協同組合	理事長	高橋 秀樹	
	伊香保温泉石段街振興会		松村 淳	
	渋川青年会議所	理事長	細谷 広平	
交通運輸関係団体	東日本旅客鉄道株式会社 高崎支社	販売促進課 副課長	三輪 佳子	
	群北第一交通株式会社	所長	唐澤 正幸	
	関越交通株式会社	代表取締役 社長	佐藤 俊也	
農業関係団体	北群渋川農業協同組合	営農経済部 部長	儘田 英二	
	赤城橘農業協同組合	理事	塩谷 陽子	
物産関係団体	渋川地区物産振興協会	地域おこし協力隊	長沼 未希	
商工関係団体	渋川商工会議所	専務理事	登坂 建一	
	しぶかわ商工会	理事	眞淵 智子	
関係行政機関	群馬県産業経済部戦略セールス局観光魅力創出課	課長	藤田 一幸	
	群馬県北群馬渋川振興局	局長	俣田 浩一	
公募市民			兵藤 秀樹	
			今井 慶子	



渋川市観光基本計画策定に寄せて

江戸末期にあたる 19 世紀に化石燃料の精製技術が確立して産業革命が起き、日本をはじめ世界人口は急増し始めました。それ以後の約 200 年間、「観光」は余暇を利用した遊興・レジャー消費として成長してきました。しかし、21 世紀に入り、先進国の人口は減少を始め、人口ピラミッドは正三角形から逆三角形へと向かっています。人口増加時代の観光と人口減少時代の観光は同じでしょうか。これからは、高齢社会が成立するとともに働く人口が減り、余暇時間や余暇消費機会が少なくなっていくことも考えていかななくてはなりません。

そうした環境を想像するにあたり、同じように人口減少期だった江戸時代にどのような旅がされていたかを考えるとヒントがあります。長きにわたり気温が上がらず、生活に困窮していた人々は、街道をたどり社寺参拝に出かけました。あるいは、心身を癒すために湯治で温泉に滞在しました。湯治場として伊香保温泉が栄え始めたのもこの頃です。すなわち、この頃の観光とは人々の願いを叶え、悩みを解決することが目的でした。

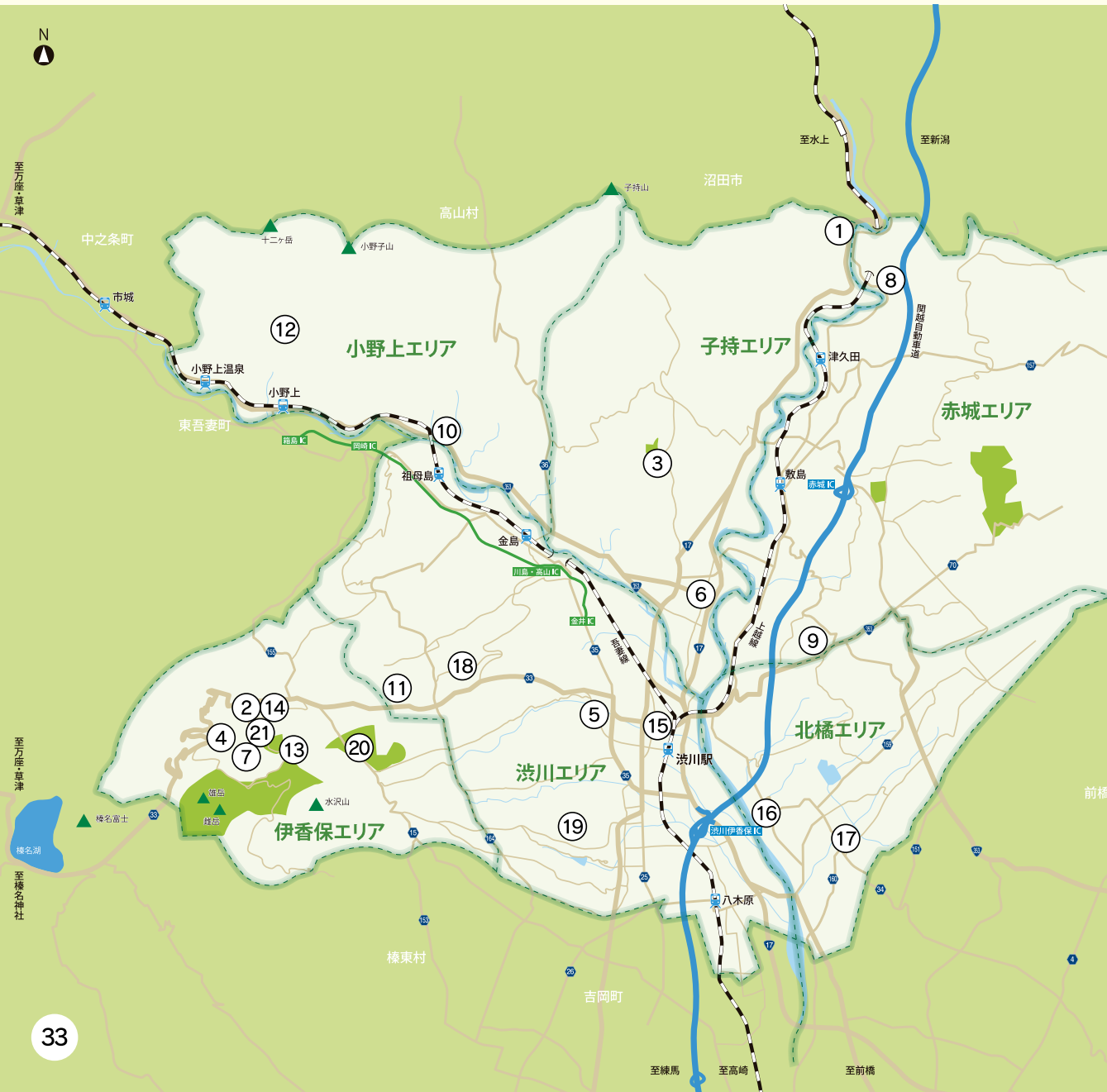
第3次観光基本計画を策定するにあたり、これまでの延長で考えるのではなく、人口減少期にあるべき観光を念頭に議論を続けました。また、デジタル社会の発展も前提としました。今後は、遊興型観光地を追い求めるだけでなく、旅行者が滞在し、何度も通うための仕組みづくりを行っていく「新しい観光」を実践する5年間が始まります。本計画が進むにつれて、渋川市民と旅行者の交流が増え、観光が市の基幹産業として一層繁栄していくことを心から期待しております。

令和5年3月

渋川市観光基本計画策定委員会 委員長
國學院大學 観光まちづくり学部 教授

井門 隆夫

Photo Gallery



①利根川綾戸溪谷

市の北部、沼田市との境界近くを流れる利根川が刻んだ景勝地。(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



②伊香保温泉

約440年の歴史を持ち、群馬県を代表する温泉地。伊香保名所の「石段」は、平成22年、1年中賑わうようにと365段に延伸された。



③ロウバイの郷こもち

子持山の丘陵に320本余りのロウバイが広がる。見頃は2～3月上旬(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



④長峰公園のツツジ

伊香保温泉街を見渡す長峰公園に広がるツツジの大群落。見頃は5月中旬～下旬(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



⑤小野池あじさい公園

多くの市民が知る市の花「あじさい」の名所。見頃は6月下旬～7月上旬(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



⑥かわづ桜の丘 白井

道の駅こもちの西側、北へと延びる坂道の途中にある「かわづ桜の丘白井」。見頃は3月上旬～中旬(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



⑦伊香保温泉 河鹿橋

伊香保温泉の最奥部、源泉湧出口と露天風呂に隣接する「河鹿橋」は、紅葉の名所として有名。(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



⑧棚下不動の滝 (雄滝)

「日本の滝100選」に選ばれる落差37メートルの滝。北側遠方には雌滝も流れる。(撮影：高間邦明・第1回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑨上三原田の歌舞伎舞台

全国に例を見ない特殊な機構を持つ舞台では、不定期で農村歌舞伎が披露される。(撮影：大島繁・第1回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑩吾妻線 第一吾妻川橋梁

橋梁に併設される市道3号線からは、間近にJR吾妻線車両を体感できる大迫力の鉄道スポット。(撮影：地域おこし協力隊・長沼未希)



⑪伊香保グリーン牧場

動物とのふれあいやさまざまな体験ができるほか、本格美術館も併設する。(撮影：佐藤里英・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑫小野上の棚田

市内でも見かけることが少なくなった棚田の中でも、昔ながらの農村の原風景を感じさせてくれる「小野上棚田の里」。(撮影：佐々木勲)



⑬上ノ山公園ときめきデッキ

伊香保ロープウェイの上った先にある展望デッキ。関東平野の始まりを確認できる。(撮影：小山亜泉・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑭伊香保温泉だんだん広場

例年冬にイルミネーションが飾られ、人気の撮影スポットとなっている。(撮影：星田昌孝・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑮渋川へそ祭り

昭和59年から開催される、腹絵を描いて踊りながらパレードするユニークな祭り(撮影：井野幸代・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑯佐久発電所の桜

北橋地区のシンボルである水力発電所。約100本の桜が植えられる。見頃は4月上旬(撮影：阿部巖・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑰木曾三社神社

木曾義仲ゆかりの神社。境内には赤城山麓最大ともいわれる湧水(湧玉)がある。(撮影：石田繁夫・第1回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑱渋川スカイランドパーク

「白い貴婦人」と呼ばれる西洋あじさい・アナベル約5,000株が、白いじゅうたんを敷き詰めたように美しく咲き誇る。見頃は6月下旬~7月中旬



⑲行幸田そば畑

赤城山・関東平野を望む行幸田南原地区に広がるそば畑。見頃は9月下旬~10月上旬(撮影：井上俊彦・第2回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



⑳渋川市総合公園展望台

標高600mに各種運動施設とキャンプ・バーベキュー場などを擁する総合公園(撮影：篠原朝夫・第1回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)



㉑伊香保温泉石段街

石段の先は伊香保神社(撮影：高橋由雄・第1回渋川市観光フォトコンテスト入賞作品)

